

## 令和6年度前期 学校評価の結果からの考察

### 重点項目① 確かな学力の育成

		評価項目	肯定的評価(%)
児童		授業では、「わかる できる」ように、自分から進んで考えている。	93.9
		わからないことや、難しい課題に対して、粘り強く取り組んでいる。	92.2
	○	友だちと協働して、学習したり生活したりしている。	94.8
保護者		学校は、「わかる」「できる」授業をめざし、お子さんが主体的に考えがもてるように授業の工夫をしている。	89.6
	△	お子さんは、課題に対して自ら考え、粘り強く取り組んで解決しようとしている。	74.8
		お子さんは、友達と協働して、学習したり生活したりしている。	85.2
教職員	△	付けたい資質・能力「課題解決能力」の育成を目指し、学習者主体の授業をしている。	100
		学力向上ロードマップにおける共通実践を行ったり、帯タイムを有効に活用したりして、基礎・基本の確実な定着を図っている。	100
		Next GIGA における ICT 機器や1人1台端末を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて取り組んでいる。	100

### 成果

- 児童、保護者ともに「友達と協働して学習したり、生活したりしている」項目において評価が高かった。
- 授業では、「わくわくタイム」（個別・協働の学びの時間）で、自分の考えと友達の意見を交流し合ったり、質問し合ったりして、考えを深めたり広げたりしていた。児童が主体的に学びに向かい、課題解決しようとする姿が多く見られた。
- 日常的に縦割り班活動を設定し、協力したり教え合ったりしながら学校行事や清掃活動に取り組んだ成果である。

### 課題

△学校研究では、「主体的に学ぶ和倉っ子の育成～自己決定と関わり合いを大切にした授業づくり～」を研究主題に掲げ取り組んできた。具体的な方策として、「育成する資質・能力（課題発見・解決能力）に向けた単元デザインの作成」「『学習者主体』となって学び合う和倉っ子セルフ授業（わくわくタイム）」を掲げ取り組んでいる。

教職員の肯定的評価は3つの項目において100%であるが、どの項目においてもA(よい)よりもB(おおむね)の割合が高く、保護者の「課題に対して自ら考え、粘り強く取り組んで解決しようとしている」の評価は低い。今後、学期の研究の取組について検証し、「学習者主体」の授業を目指して改善して取り組む必要がある。また、家庭学習においても、ICTを活用してより効果的な家庭学習の内容を吟味していく必要がある。

## 重点項目② 豊かな心の育成

		評価項目	肯定的評価(%)
児童	△	自分のよいところを見つけて知っている。	68.7
		進取の心で、自分から進んで学習したり生活したりしている。	89.6
	△	友達に対して、思いやりのある言葉を使ったり、行動をしたりしている。	86.1
保護者		学校は、子どものよいところを見つけて、認めたり褒めたりするようにしている。	83.5
	△	お子さんは、進取の心で、進んで学習したり生活したりしている。	70.4
	△	お子さんは、友達に対して思いやりのある言葉を使ったり、行動したりしている。	80.9
		学校は、いじめの未然防止や早期発見と早期対応を行っている。(生徒指導便り、なかよしアンケート、担任やスクールカウンセラーとの面談)	88.7
教職員		自他を尊重し合う人権教育、道徳教育、特別活動、キャリア教育の充実に取り組んでいる。	100
	○	生徒指導の4つの視点をいかし、いじめに対する感度の向上、「報・連・相」を徹底した組織的な対応に取り組んでいる。	100
	○	不登校・問題行動等の未然防止に向けて、「チーム支援」による連携と情報共有をしている。	100
	○	児童会や縦割り班による異学年の体験活動や校外学習の充実に取り組んでいる。	100

### 成果

- いじめの未然防止や早期発見と早期対応について保護者の肯定的評価が高かった。(昨年度89%) 生徒指導の4つの視点をいかして、いじめ未然防止に向けて取り組んだ成果である。なかよしアンケート、心のアンケート、スクールカウンセラー(SC)による全員面談の実施等、丁寧な家庭への対応によるものと考えられる。
- 不登校・問題行動等の未然防止に向けて、「報・連・相」を徹底し、組織的・協働的に対応することができた。今年度は、不登校傾向と思われる児童が0人で、児童の様子を観察しながら継続して見守りをしている。

### 課題

- △「自分のよいところを見つけて知っている」「友達に対して思いやりのある言葉を使ったり行動したりしている」の項目の評価が低く、自他を大切にすることに課題がある。教職員の「自他を尊重し合う人権教育、道徳教育、特別活動、キャリア教育の充実」の評価は高いことから、教職員と児童・保護者の評価にズレが伺える。今年度、「進取」「協働」「貢献」をキーワードに教育活動全体を通じた取組を行い、児童が「協働」する場を意図的に設定している。今後はさらに、児童のよい姿を価値づけて、自己有用感を高めていき、課題解決に迫りたい。
- △学級で、温かい言葉遣いができている場面を取り上げて認めていく。また、思いやりのある言葉を使うと、円滑な人間関係を築くことができると感じられるような構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学級活動を進めていく。

### 重点項目③ 心身ともに健康な児童の育成

		評価項目	肯定的評価(%)
児童		早寝・早起き・朝ごはん、歯みがきなどに心がけ、規則正しい生活習慣を身に付けるようにしている。	88.7
	○	命を守る避難訓練に、よりよい行動について考えながら、真剣に取り組んでいる。	97.4
		体づくりのために、体育の時間や休み時間に、進んで運動している。	87.8
保護者	○	学校は、早寝・早起き・朝ごはんなどの規則正しい生活習慣や歯みがきが身につくように、働きかけている。(健康ブック, 保健指導)	94.8
	○	学校は、安全教育(防犯・防災・避難訓練・交通安全教室等)を適切に行っている。	93.0
		児童の体力向上に向けて、全校で積極的に取り組んでいる。(スポーツテスト, 体育祭等)	81.7
教職員	○	安全教育(防犯・防災・避難訓練・交通安全教室等)に積極的に取り組んでいる。	100
		基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭と連携した取組を進めている。	100
	△	体力向上を目指して、体力アップ1校1プランやスポチャレいしかわの取組に積極的に取り組んでいる。	100

#### 成果

- 1学期に能登半島地震後の危機意識をもって火災避難訓練、不審者対応訓練、地震避難訓練、児童引き渡し訓練等を実施した。いずれの訓練も、命を守るためにこれまでも課題を改善しながら取り組むことができた。事前にプレゼンを作成し、児童の指導を十分に行ったことから、児童がめあてをもって真剣に取り組み、より効果的な訓練ができたと考えられる。
- 県教育委員会指定「安全総合支援事業(災害)」に取り組み、能登半島地震の経験をふまえて、地震からの避難の仕方や児童引き渡し方法を大幅に見直し、地域と連携して避難訓練を実施した。今後は、危機管理マニュアルを地域と共有し、地域の特性に合った必要な対策と備えをしていくことが必要である。
- 保健だよりの工夫や健康ブックの取組を進めることで、家庭と連携して生活習慣の育成をすることができた。

#### 課題

△地震により、運動場やプールが使えないため、体育祭(運動会)、体力・運動能力調査、水泳学習等の練習は限られた場所で工夫しながら取り組んだ。また、いしかわスポチャレは、県の取組が始まっておらず、本校でも未実施の学年も多い。2学期以降、授業や行事を通して計画的な実践を行い、体力向上に努める。

**重点項目④ 家庭・地域とともに復興応援大作戦！ = 「和倉大好き！～がんばろう和倉！～」**

		評価項目	肯定的評価(%)
児童	○	ふるさと七尾・和倉のすてきな所を見つけ、大切にしようと思っている。	93.9
	△	人のために、役立つことをしている。	83.5
保護者	○	学校は、ふるさと七尾・和倉を大切にしている心を育てている。(生活科:町探検,総合的な学習の時間:田んぼ作り,ふるさと七尾 SDGs,地域の方のゲストティーチャーなど)	90.4
		お子さんは、人のために役立つことをしている。	87.8
		学校は、経営方針や学校の様子などをよく伝えている。(学校だより,学年だより,メール配信,学校説明会)	90.4
教職員		ふるさと七尾・和倉のリソース(自然、人、歴史・文化遺産等)を有効に活用して、和倉復興に向けて取り組んでいる。	100
		保護者や地域の意見に耳を傾け、学校評価からの検証をいかして教育活動に取り組んでいる。	100

**成果**

- 「ふるさと七尾・和倉のすてきな所を見つけ、大切にしようと思っている」では、総合的な学習の時間に「未来へつなごう!和倉わくわく復興大作戦!」をテーマに掲げ、3年生以上は学年テーマを設定して復興に向けた探究学習を進めてきた。また、生活科の学習で1・2年生は和倉公園を探検し、自然あそびをしたり、遊具で遊んだりした。2年生は町たんけんの学習で、総湯・地域の飲食店・交番・ゆったりパークを見学し、「和倉の町のすてき」を見つける学習に取り組んだ。
- 体育祭(運動会)では、全校児童がよさこいを踊ったり、太鼓クラブの児童が「和倉いで湯太鼓」を披露したりした。10月には「能登よさこい祭り」に全校児童が参加する予定である。この取組は、ふるさとを愛する心を育む一助となることをねらっている。
- 学校からのおたよりは、ホームページに載せ、Web配信をした。一人一台端末を使って、各学級の児童の活動の様子を動画や写真で視聴できるように工夫したことで、学校教育の様子をより具体的に伝えることができた。

**課題**

△学校教育目標のキーワード「貢献」を、「和倉の町への貢献」として教師・児童ともに意識し、生活科、総合的な学習の時間と関連付けながら、保護者や地域や関係者の方々とともに一体となって和倉の町の復興に向けて取り組んでいきたい。

**重点項目⑤ 「チーム支援」による全教職員での協働**

		評価項目	肯定的評価(%)
教職員	○	「報・連・相」を徹底し、一人で抱え込まず、組織で対応する体制ができている。	100
		各教職員に適した校内研修(若プロ、GIGA 校内研修、OJT等)が充実している。	100
	△	最終退校時刻(19:00)を遵守し、定時退校(毎週水曜日 18:00)の働き方の改善の工夫を実践している。	92.3

**成果**

- 全職員で「報・連・相」を徹底したこと、課題について早期発見・早期対応を心がけて迅速に対応したこと、必要に応じて関係機関にも協力を得たことで、チームで組織的に対応することができた。
- 若手とベテラン教諭が話しやすい場を目指し、若プロ研修や校内研修を通して授業や日頃の悩みを相談できる場を設定した。

**課題**

△退校時刻を設定し、計画的な働き方を呼びかけているが、勤務時間外労働時間が長い方もいる。限られた時間の中で優先順位を決め、仕事の見通しをもって計画的に取り組んでいく。教育の質を落とさず業務改善を進める意識を高める。